

令和6年度宇都宮市学校教育推進懇談会会議録

■ 日 時 令和7年2月5日（水）10時00分～11時30分

■ 会 場 宇都宮市役所14A会議室（本庁舎14階）

■ 出席者

委 員： 人見 久城 会長，福田 治久 副会長，白石 智子 委員，
佐藤 弘大 委員，後藤 令子 委員，西園 多佳子 委員，
山崎 英明 委員，大川 直邦 委員，宮澤 文洋 委員，
東原 定雄 委員

事務局： 教育長，教育次長，学校教育担当次長，総務担当主幹，教育企画課長，
学校管理課長，学校教育課長，学校健康課長，生涯学習課長，教育セ
ンター所長，学校教育課課長補佐他

■ 会議経過

1 開会

2 教育長あいさつ

3 委員紹介，教育委員会事務局自己紹介 （資料1）

4 会長，副会長の選出 （資料2）

委員の互選により，会長には 人見 久城 委員，副会長には 福田 治久 委員を
選出した。

5 議題

(1) 「第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画」について（資料3）

説明事項（要旨）

資料の読み方についての質問 なし

(2) 「第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画」の令和6年度取組状況について （資料4）

協議事項（要旨）

会 長：基本目標1，2について意見はあるか。

委 員：「確かな学力を育む教育の推進」について，よい傾向が表れている。誰
一人として取り残さない視点では，それぞれの児童生徒の支援が大切
だと思うが，取組状況について教えていただきたい。また，C B Tで
の質問紙調査が始まったが，C B T化への備えについて伺いたい。

事 務 局：1点目の誰一人として取り残さない取組として，本市では，すべての学
（学校教育課）校で習熟度別学習を行っており，少人数での指導をしている。また，1
人1台端末内のデジタルドリルは，一人一人の学習状況に応じて活用で
きるようになっており，全ての子どもたちの学力を保障できるよう取り
組んでいる。2点目のC B Tの備えについては，授業等において，端末

を効果的に活用している取組を、全校にフィードバックするなどして1人1台端末をはじめとしたICT機器の積極的な活用に取り組んでいる。今後も進んでいる学校の取組をすべての学校に還元し、全校が遺漏なく取り組めるようにしていく。

委員：成長し続ける基盤に関わる「体力」について、コロナ禍からリカバリーができていない状況であり、女子のポイントが下がっている。義務教育期間の体づくりは重要であり、学校外の体力づくりも大切と考えるが、家庭への働きかけなどの施策はあるか。

事務局(学校健康課)：コロナの影響が続いていることは認識している。学校は、教育活動を通して体力向上に努めているが、家庭での運動機会の創出も必要と考えており、「元気アップだより」を年4回発行し、家庭でも取り組んでもらえるようお願いしている。また、「元気っ子チャレンジ特別版」として、長期休みに取り組んでもらえるよう、学校からも働きかけている。

会長：引き続き、学校と地域の連携する取組としてお願いしたい。

委員：学校での休み時間に外で遊ぶことが、体力向上に大切である。業間や昼休みに運動が行われている学校もある。小学校でも「元気っ子チャレンジ」の取組を広げている。本校では、新体力テストの意識調査では、90%以上の児童が「運動が好き」と肯定的に答えており、学校側が引き続き、体力につながるよう頑張っていく必要がある。

委員：中学校では、運動部に加入しているかどうかで体力に差が出る。本校では、生徒が運動をしたくなるような環境づくりを進めており、運動機会の創出として学年でボールを購入したことにより、運動する生徒が増えるという成果が出ている。

委員：幼児教育での体、手を動かす、足を動かす、ジャンプをするなど、ごっこ遊びから体の動かし方につながる。その先に小、中学校の体育につながっていくと考える。幼児期にどのような体を動かすことを経験したら小・中学校につながるか考えていくことが大切である。

会長：保育・幼稚園での教育が小・中学校につながるの、幼児期の姿を視野に施策・事業の設定は大切である。小学校の生活科ともつながりが深い。

委員：夏休みに外で遊んでいる児童生徒が減っている。保護者からは、猛暑やコロナ禍での生活の影響により、家でゲームをしている時間が増えているという悩みを聞くことがある。インターネットの利用やゲームの時間のバランスが、運動能力の低下につながっていると考え、学校でバランスのよいインターネットの活用について、どのように指導しているか伺いたい。

事務局(学校教育課)：ゲーム等に費やしている時間と、学力・体力は関係があると考えており、学校、保護者に対しても周知啓発を行っている。学力との関連については、学力調査の結果とゲームの時間には相関があるので、しっかり分析して、学校に働きかけていきたい。

委員：学校では、フィルタリングや、インターネット等の正しい使い方、デジタル・シティズンシップについて指導している。危ないから使うのではなく、うまく使っていくことに視点をあて、バランスをとりながら進めている。

委員：子どもたちがテレビを視聴する時間やゲームをする時間についてのデータはあるか。家庭で、親がゲームをしたり、動画を見たりしていることも、子どもへの影響となっているのではないか。子どもの生活は、家

庭が基本になるので、家庭へも積極的に外で遊ぶ機会を促進し、環境を整えることがよい方法と考える。

事務局：スマートフォンでのインターネット利用については、小学1年生で44分、中学2年生が最長で1時間31分となっている。中には依存気味の児童生徒もいることが考えられることから、学習面や体力面との相関も含めて、可能な限り学校、保護者への周知に努めていく。

事務局：家庭への協力について、外遊びの促進は重要である。学校健康課では、健康への影響について、視力の低下、姿勢の悪化、睡眠時間の減少など、体力のみならず健康にも影響が出ることを周知していきたい。

事務局：児童生徒が進んで運動する環境を整えることや、外遊びをしない子どもが増えている現状が話題に上がったが、本市の取組として、全校の体育館にエアコンを導入しており、熱中症アラートが出されても、安全・安心に体育館で授業が実施できるようになっている。休み時間に体育館を涼しくして開放している学校もあり、児童生徒が遊ぶことができる環境を提供し、体力向上に努めていきたい。また、今年度、新体力テストの結果から、投力については改善が見られている。今後は俊敏性等にターゲットを当て、家庭でも取り組むことができるよう考えていく。

委員：デジタル機器を活用して体力を向上する視点もあるので、端末で記録や結果を入力すると個人に合ったおすすめメニューのようなものが見られるようなものがあれば、児童生徒の活用促進につながると考えるが、組織的に取り組んでいることがあれば伺いたい。

事務局：子どもたちが一人一台端末を使用すると膨大なデータが残り、今後そのデータをどのように活用すべきかが重要である。具体的な取組は具現化されていないが、今後取り組むこととして考えていきたい。

会長：学校での一人一台端末の活用例はあるか。

委員：授業では、一人一台端末を活用して自分の動きを映像で撮り、動きを確認し合うなどの活用例があり、成長が記録できる。自分の体力について意識してチェックしていくために、有効な活用と考える。

会長：データのポートフォリオは大事である。振り返りなど、体力向上の充実に向けて引き続きお願いしたい。

会長：基本目標3～6について意見はあるか。

委員：基本目標3の(1)～(3)については、インクルーシブ教育、特別支援教育は幼児期から行われており、幼児教育とのつながりが計画に入っているとよい。不登校についても、不登校の数が過去最高となっているので、早急な対策が必要と考える。コロナ禍以降、特別支援や外国籍児童生徒については、支援が必要な子どもが非常に増えているので、対策が必要である。また、基本目標5に関連して、幼小での合同研修会の機会は非常にありがたい。次の計画において、教職員同士の相互理解の深化を進めていくためには、校長や園長などの管理職の理解とリーダーシップ、自治体の支援が大切なので、次のステップとして、連携に向けた行政の支援があるとよい。

会長：後期計画の実効性を高めることや、次の計画を検討する際の視点として大切な意見だと考える。働き方改革について、学校の先生方を応援していきたいと考えるが、何か御意見はあるか。

委員：教職員の人事管理システムの導入は、学校現場の働き方改革につながっ

ている。教職員の評価や学級編制の管理などが、一つのソフトですべてができるので、今後は、更なる校務のD X化を進めていきたい。

委 員：時間外に勤務している先生が多いが、若い先生に限らず、病気で休む先生が多いことも関係しているか。

事 務 局：実際の学校の状況によって、授業や校務分掌が増えることもあるが、個人（学校教育課）の意識改革が大事だと考える。まだ進んでいないところもあるので一人一人の意識改革も進めていければと考えている。

副 会 長：基本目標 3 の(2)「不登校」について、本市では、「U@りんくす」など、様々な施策の成果があるが、不登校は増えており、数字と向き合っていないといけない。フリースクールとの連携や不登校の児童生徒が学ぶことができる施設をつくるなど、「教育で選ばれるまち」として、検討してもよいのではと考える。部活動の「地域移行」を「地域展開」と呼んでいくのは来年度からか。

事 務 局：国では「地域展開」という言葉に変わってきているので、順次変更して（学校健康課）いく方向で考えている。

副 会 長：働き方改革について、小学校と中学校の別の指標があってもよいと感じた。中学校の勤務外の在校時間が長いイメージがあるが、関連したデータはあるか伺う。

事 務 局：昨年度の小学校・中学校別の教職員の勤務時間外の在校時間の1か月あたり（学校教育課）の平均は、小学校が4 1時間、中学校は6 0時間ほどとなっており、中学校の方が多い。御指摘のとおり、校種別の対応が必要と考える。

副 会 長：部活動もコミュニティー・スクールも地域とともに進めていくものである。働き方改革については、学校が地域に伝える際に誤解を与えないよう、うまく伝えていくことが大事である。

事 務 局：地域とのつながりであるが、地域を大切にしていかなないと学校が成り立たない（学校教育課）ので連携を図れるようにしたい。

会 長：様々な御意見ありがたい。円滑な進行に感謝する。